

# 令和8年度 県立つくばサイエンス高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術やデータサイエンスに関する探究活動を通して、次世代の科学技術や現代社会の課題解決をする人財を育成する学校</li> <li>・大学や企業、研究機関との連携を通して主体的かつ協働的な学びを推進する学校</li> </ul>		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	次世代の科学技術や社会の担い手として、未来を切り拓く人財の育成を目指す。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	幅広い学問分野への知的好奇心、探究心を育み、進学後の学びの基礎を築く教育課程を編成し、実施する。	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	科学や現代社会への知的好奇心、探究心をもち、未来を創り社会を変える志のある生徒を求める。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面では、ICT機器等を活用し、生徒個々の学力の向上に努めた。また、授業改善のための定期的な研修と教職員による授業参観を実施した。</li> <li>・1年次からの系統的な指導により、国公立大学の現役合格実績を出すことができた。今後も大学進学に向けて生徒の個に応じた学習指導を継続して実践する。</li> <li>・科学国際セミナー等の講演、特別授業により、普通科、科学技術科の生徒それぞれの興味関心を高めることができた。</li> <li>・文化祭やスポーツフェスティバル等の学校行事では、生徒の積極的な参加が認められた。今後も生徒の主体性を伸ばす取り組みを継続していく。</li> <li>・デジタル教材やAI教育事業を効果的に活用し、生徒のICTリテラシーが向上した。また、教員研修を通じて校内のDX化が加速し、情報共有が迅速化した。</li> <li>・学校説明会に加え、管理職が近隣中学校を訪問するなど、本校の目指す学校像についての説明に努めた。しかし、定員の確保に至らなかった。今後も、本校の特徴を積極的にアピールしていく。</li> </ul>	1 教科指導の充実	① DXハイスクール等で整備した ICT 機器の有効活用及び生徒個々のタブレットを使用した個別最適な学習指導や協働学習の充実に努める。 ② 年間指導計画に則り、目標に準拠した観点別評価により、指導と評価の一体化を図り、生徒個々の学習を充実させる。 ③ 主体的・対話的で深い学びを目指した授業を実施し、生徒個々に即した思考力・判断力・表現力の育成に努める。	
	2 進路意識の高揚と進路希望の実現	④ 各授業や特別活動、学校行事等あらゆる機会を通して、進路に対して考える機会を設け、進路意識の高揚を図る ⑤ 生徒の課題解決能力の育成のため、大学・研究機関との連携を深化させる。 ⑥ 4年制大学進学をめざす系統的、段階的指導を推進する。	
	3 特別活動等の充実	⑦ 生徒が特別活動に積極的に参画する仕組みをつくり、生徒主体の特別活動等の充実に努める。 ⑧ 生徒会活動を通して自主自立を促し、生徒に社会の一員としての自覚をもたせる。 ⑨ キャリアパスポートを活用し、特別活動での学びのポートフォリオ化をし、自己を振り返る活動を行うことでキャリア形成の手助けをする。	
	4 働き方改革	⑩ 教職員のワークライフバランスの意識、互いに業務を分担しあう意識を醸成する。 ⑪ 定時退勤日、閉庁日の設定、超過勤務時間を削減する。	
	5 授業改善の推進	⑫ 生徒の授業評価において授業満足度4点満点中、学校全体の平均を3.5以上にする。	
	6 情報発信活動の充実	⑬ 授業改善推進プロジェクトチームを中心に授業改善を促進し、相互授業参観、他校視察、研究授業や師範授業の開催、校内研修等を推進する。 ⑭ 本校の特性の周知活動を展開し、魅力発信のための方策を展開する。	

別紙様式 2 (高)

		⑮ 生徒の外部発表の機会の増加、外部講師との連携強化などを通し、本校独自の教育活動の充実を図る。						
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題				
教科指導 (国語科)	国語の基礎的な知識や技能の確立	デジタル教材を特長に応じて活用したり、課題を充実させたりして、高校生としての国語の基礎基本を身に付けさせる。①②③④⑥ 一般的な語句や言葉の意味を知り、活用する機会を充実させ、語彙力を向上させる。①③⑥						
	文章や話の内容を理解する能力の養成	文章を読んだり話し合ったりして多くの考えに触れ、自己の思考と比較し深化させる能力を養う。①③⑥						
	自己表現力の養成	各種文章の書き方を学び、時と場合に応じた文章で表現したり話したりする。①③						
	進路支援の充実	大学一般入試での進路実現を目指し、生徒の習熟度に合わせて授業内容を精選し、学力定着に努める。①④⑥ 総合型選抜等に向けた指導を、年次や各教科と連携して行う。①④⑥						
	授業満足度の向上	振り返りを通して、生徒の理解度を適切に見取る。②⑫⑬						
	教科指導 (数学科)	数学的な基礎力の確立	ICT 機器を有効活用し、学習活動の効率化と質的向上、個別最適化を図り、数学への興味・関心を向上させることで、理工系学部進学的基础となる知識・技能の定着を促進する。①⑥⑭ 習熟度別授業および課外授業を充実によって個別最適な学びを展開し、生徒の実態を踏まえながら数学的な基礎力を確立させる。①②⑫ 教科内で目標や評価規準を綿密に共有し、計画的かつ組織的な教育活動を実践する。①②⑫					
高度な思考力・判断力・表現力の育成		授業や長期休業中の課外授業等において発展的な内容を扱い、理工系学部進学に求められる高度な数学的思考力や判断力、課題解決能力を育成する。③⑥⑫ 協働的な学びを促進し、他者との対話を通して自らの考えを論理的に説明する数学的表現力を身に付けさせる。③⑥⑫						
数学への興味関心の深化		教科等横断的な視点を取り入れ、物理・化学・工学等の諸分野における数学の有用性を理解させ、日常生活と数学との関連性を主体的に見出す姿勢や課題発見能力を育む。④⑥⑭						
授業改善サイクルの確立		相互授業参観や校内研修を活性化させるとともに、授業アンケートの結果を分析することで、生徒のニーズを反映した双方向の授業改善サイクルを確立する。⑥⑫⑬						
教科指導 (地歴・公民科)		基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得	個々の学習状況に応じた課題を提示するため、ICT 機器を活用し、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。① 学習アプリや小テストを継続的に活用し、基礎的な用語や概念の確実な定着を徹底する。①②					
		学力の向上	生徒の理解度に合わせて指導内容を精選し、学力の確実な定着に努め、基礎知識の習得にとどまらず、応用問題にも対応できる力を身に付ける。①②③ 用語の理解を土台とした上で、自分の考えを論理的に構築し表現する授業展開を工夫する。③					
	進学指導の充実	総合型選抜等の入試指導や小論文指導などで、年次や進路支援部と緊密に連携した指導体制を構築する。④⑤⑥						
	授業改善の推進	タブレット端末等の ICT 機器を効果的に活用し、他教科とのつながりを意識した学習を展開する。⑤⑥⑫⑬						
教科指導	生きて働く「知識・技能」の習得	高校で新たに学ぶ知識を、中学校までの既習内容と関連付けていくことで、理科の重要概念を理解できるよ						

別紙様式 2 (高)

(理科)		うにし、大学一般入試や総合型選抜等に対応できるようにしていく。③⑥		
		主張や根拠を効果的に表現できるようにするために、観察や実験を通して、器具の使い方や、表やグラフの活用方法を身に付ける。①③		
	未知の状況にも対応する「思考力・判断力・表現力等」の育成	観察や実験の充実や協働的な学びを通して、予想・仮説を設定し、データを考察して規則性や法則性を見いだす力を育成する。③		
	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養	授業プリントや問題集等の活用を通して、生徒個々が取り組み方を調整できるようにする。②③		
	授業改善の推進	ICTや外部のコンテンツを活用し、授業の見直しを継続する。①⑭ 前年度までに蓄積した授業や実験のプリントを改善し、理科教員間で共有する。⑩⑬		
教科指導 (英語科)	学力の定着・向上を図る	各年次・教科で基本的な語彙数を増やすとともに、文法力を養う。 学習した表現を使った活動を通して4技能の伸長を目指す。②③ 資格試験等を勧めるとともに、対策課外を実施する。④⑥		
	国際人としての視野を養う	ALTとのTeam teaching等を通して、英語による言語活動の機会を増やし、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。③ 外国の文化や歴史、国際的な話題にできるだけ多く触れさせ、生徒の視野を広げ、コミュニケーション能力の基礎を培う。③④		
	授業改善の推進	ICT機器を活用して、課題や小テストの実施、パフォーマンステストの評価をする。①		
	生活者としての生きる力を身に付ける	生活を創造する主体として必要な基礎的・基本的な知識と技能について、実践的・体験的な学習を通じた指導の工夫。①②③		
教科指導 (家庭科)	学習指導の充実	学習の見通しをもたせ、主体的・対話的に取り組める学習展開を工夫する。③		
	授業改善の推進	地域や関係機関等との連携をとoshi、社会の変化に対応した指導内容の工夫をする。①③⑮		
	基礎体力の向上 運動技能の向上	基礎体力の重要性を理解させ、体力を高める運動を実践する。③ 各単元の基本的な運動技能について能力に合わせた指導を行う。③ ゲーム形式の学習を通じて身に付けた運動技能を向上させる。③⑪		
	健康問題の解決	保健の授業で様々な健康問題を取り上げ、その解決法を考えさせる。③ 健康や安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理、改善する能力を育てる。③		
授業改善の推進	ICT教材を活用することでより深い知識を身に付けさせ、課題解決する力を習得させる。①⑭			
教科指導 (芸術科 ・美術)	学習指導の充実	生徒の興味・関心に沿った題材設定と、実態に合わせた指導を行う。①②④⑧⑫ デジタルツールを活用し美術、芸術作品に多く触れさせることで、創造的な表現や物事の造形的な見方・考え方を身に付けさせる。①③⑤⑧ ICTを積極的に取り入れ、題材設定と授業形態の工夫を行う。①③⑥⑫⑮		
	進路指導の充実	学校や学級に愛着をもてるような制作活動や展示を行い、積極的に外部へ発信する。⑥⑦⑧⑭ 作品制作や鑑賞において、言語活動を通して改善や向上の意識を育てる。①③⑦⑧		
	特別活動の充実	自己分析と課題発見の場とするために、公募展やコンクールに積極的に参加させる。③④⑥⑧⑨ 他者の視点に立って考える機会を設け、公共の精神を養う。③⑦⑧⑨		
	授業改善とデジタル人材の育成	ICTを積極的に取り入れ、課題回収や成績処理の効率化を図る。①⑩⑪		

別紙様式 2 (高)

		生徒の学習環境を整え、授業や部活動をより効率的に実施する。①⑩⑪⑭⑮			
教科指導 (情報科)	学習指導の充実	情報社会と人との関わりを意識した題材の設定と、生徒の実態に合わせた指導を行う。②③⑫ 授業・実習を通じた ICT の活用、デジタルコンテンツ等の有効活用を図る。①			
	情報活用能力を高める「思考力・判断力・表現力等」の育成	演習や体験活動といった協働的な学びを通して、予想・仮説をし、データを考察して規則性や法則性を見いだす力を育成する。③⑭			
	進路意識の向上	教科等横断的な学びを促進し、数学や理科、工学などの科学分野と情報との関連性を理解させる。日常生活から情報の学びを主体的に見出す姿勢や課題発見能力を高め、進路意識の高揚につなげる。④⑥⑮			
教科指導 (理数科)	探究方法の習得	探究的な学習を進める中で、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」それぞれの過程について、実体験を交えた活動を取り入れることで、課題を解決する力や創造的な力を高める。①③⑤			
	授業改善の推進	教材提示および、生徒によるデータ分析や資料の作成に ICT を活用することで効率化を図る。①⑩⑬			
教科指導 (工業科・科学技術)	進学指導の充実 学力の育成	総合型選抜等の入試指導や小論文指導などを、年次や進路指導部と連携して行い、合格率向上のための基礎力を養う。④⑥ 授業・実習を通じた ICT の活用、デジタルコンテンツ等の有効活用を図る。①			
	学習活動の改善	授業・実習及び探究活動を通じた知識・技術の定着を図る。③			
		授業・実習を通じた課題解決型学習の実践をする。②③			
	外部連携の推進	授業・実習やサイエンスアドバイザー等の特別授業を通じた教科等横断的な学びを充実させる①③			
科学国際セミナーなど校外での研修・研究活動を通し、見聞を拡大する。④⑤⑥					
授業改善の推進	授業満足度向上のため、授業アンケートの積極的活用をする。⑫⑬				
	ICT を活用し、資料作成、授業展開等の授業改善を実施する。⑫⑬				
校務分掌 (教務部)	入学希望者の確保	事業戦略部と学校説明会の企画・運営の連携を行い、中学生に魅力を伝える。⑥			
	学校運営の円滑な実施	定期考査・特編授業の時間割や年間、月間行事予定表を作成し、見直しをもって業務にあたる。②⑤			
		各部署との連携により、学校運営を円滑に運営する。①④⑤			
		教科用図書、副教材、教具等の準備を行い、業務の円滑化を図る。①			
	公簿・表簿等の作成、整理	学校要覧、指導要録等の作成・管理を適切に行う。⑩			
出席簿、学級名簿の作成・管理を適正に行う。⑩					
働き方改革の推進	ICT 活用により、校内情報を整理し、情報へのアクセス時間を向上させる。⑩				
校務分掌 (進路支援部)	進路意識の高揚	外部模試を実施し、生徒の学習到達度を把握して、生徒の意識を向上させるよう努める。(年4回以上) ④			
		大学見学会の実施やオープンキャンパスを案内し、早くから広い知見を得られるよう指導する。④⑤			
	進路希望の実現	確かな学力を身に付けるための課外授業を実施する。⑥			
		生徒の学習状況や進路希望について、Classi 等を活用して、生徒や教員間のいち早い共有を図り、効果的な指導を継続的に行う。⑥⑬			
		総合型選抜等にむけた課外授業や個別指導の体制を充実させる。⑥			
働き方改革	外部業者の積極的活用による業務負荷の軽減を図る。⑩				
	ICT 活用による進路情報を公開し、必要な時に必要な情報に対してアクセスできるようにする。⑩				

別紙様式 2 (高)

校務分掌 (生徒支援部)	学校生活における安全確保と基本的な生活習慣の確立	貴重品及び自転車等について管理施錠の徹底を図り、生徒個人の物品管理に対する意識向上を図る。⑦		
		各年次による講演会を通して生徒に注意喚起を促し、交通事故や事件などに関する予防を図る。⑦		
		校内外巡回の定期的な実施と教員間の共通理解による生徒指導を行い、生徒の問題行動・トラブルなどの未然防止に努める。⑦		
		学期ごとに自転車点検を実施し、施錠による盗難防止と車両管理の重要性を意識させる。また、バイク・自転車通学者に対して安全指導を行い、交通安全の重要性を認識させる。⑧		
	高校生さわやかマナーアップの実施と学校内外との連携	教員による声掛けや生徒支援を行い、生徒の基本的な生活習慣の確立に努める。⑧		
		挨拶運動を通して生徒と教員間の関係性を深め、本校性としての身だしなみやマナーの必要性を考えさせる。また、清潔感のあるクラス経営を行い、担任・副担任と生徒間が交流を深めながらマナーの向上を図る。⑧ さわやかマナーアップなどを通して近隣小中学校や公共機関と連携し、本校と地域との交流を深めながら本校生が公的場所におけるマナーの向上を図る。⑧		
規範意識の向上と保護者との連携	職員間の報連相を通して生徒の共通理解に努め、生徒に本校性としての守るべきルールを指導しながらマナーやモラルの向上を図る。⑨			
	生徒支援において年次団を中心に保護者と連携しながら信頼関係を築き、本校教育への理解・協力を得ながら生徒が社会で自立できるよう規範意識の向上に努める。⑨			
校務分掌 (環境厚生部)	安全管理・安全教育の推進	防災訓練・講話を実施し、災害時の適切な行動や安全に対する知識の習得を目指す。⑦ 防災計画を立案して、学校全体の安全管理を徹底すると共に、安全点検及び更衣室等の見回り巡視により、学校施設・環境の安全確保に努める。⑦		
	「健康づくり」の推進	健康診断により自分自身の健康状態を把握させ、自らの健康を管理する能力を養う。③		
	学習環境の整備	清掃の徹底とゴミの分別を推進する。⑦ 学習環境改善のため、年2回の安全点検を励行し、修繕箇所等の放置がないように努める。⑦		
校務分掌 (図書部)	図書館利用の促進	生徒や教職員のおすすめ本を紹介する展示コーナーを作る。①⑦		
		新着図書やテーマ展示の情報を効果的に発信する。③		
		図書館の使い方を紹介するオリエンテーションを生徒向けに実施し、利用促進を図る。③ 教室使用簿や教職員への声かけをし、図書館の授業等での活用機会を増やす。④⑬		
	読書環境の整備	最新の話題書や生徒の興味関心に合った図書を積極的に購入する。③ ポップや装飾を活用し、季節感やテーマに合わせた展示を行う。⑦		
		委員会の貸出や蔵書の管理業務を習熟させ、主体的に委員会活動が行えるように指導する。③⑦ 図書委員向けの研修会に参加して、他校と情報を共有する。⑦⑬		
校務分掌 (特別活動部)	生徒が主役になる特別活動の充実 ホームルーム活動の推進	生徒が主体となった学校行事の企画・運営を通し、生徒の自主的・実践的な態度を育てる。⑦ ホームルーム活動や生徒会活動を通し、生徒一人一人に自覚と責任感を培う機会を与える。また、生徒相互の連帯感を深める。⑦ 「キャリアパスポート」を活用し、生徒の自己実現につなげる。⑨		
		委員会活動を活性化するために、活動内容・活動時期等の見直し等を含め、体制を学校全体で考えて取り組む。⑦		
	働き方改革の推進	特別活動に関する業務内容の見直し改善を図り、適切な役割分担と準備の早期始動、業務の効率化により教職員の負担を軽減する。⑩		

別紙様式 2 (高)

	情報発信の充実	SNS等を活用し、学校行事や生徒会活動の周知活動を展開し、本校の魅力発信の充実を図る。⑭			
校務分掌 (渉外部)	後援会運営の透明性と効率化	活動内容の明確化および公開を通して、保護者の理解と協力を促進する。⑭⑩			
	後援会活動目的とメリットの明確化	後援会の目的である「生徒の健全育成支援」を再確認し、保護者がその意義や効果を実感できる活動の推進に努める。⑭			
	後援会行事の多様な参加方法の導入	行事ごとに希望者を募る方式など、参加の選択肢を広げる。⑭⑩			
	100周年記念事業実施計画の具体案作成	100周年事業計画に基づき、役割分担ごとに具体的計画案を作成する。⑭			
校務分掌 (情報管理部)	ICTを利用した授業の推進	ICT機器、コンピュータの整備やシステムの活用に関して職員の啓蒙を図る。①⑬⑭⑮ 職員のICTスキルアップを促進する。①⑬⑭⑮			
	視聴覚部門の充実と運用	視聴覚機材を更に拡充し、授業・行事等での積極的活用を図る。①⑦			
	教育支援システムの維持管理と活用	教育支援システムの円滑な運営に向け、役割分担の明確化と整備・活用ができるように計画し実施する。⑩			
	情報機器の整備とその運用の活性化	情報機器、校内ネットワークの整備を行い、有効利用を図る。①⑭			
		個人情報保護やウイルス対策など、セキュリティ対策に努める。⑬			
校務分掌 (事業戦略部)	科学的素養の育成	各種連携(産学・中高・高大・国際)の連絡・調整・企画・実施、講演会の企画・実施、総合的な探究の時間の充実、STPの実施などに努める。④⑤⑥			
	外部への発信	生徒の様々な取組みを、ホームページやSNS、スクールガイド、News Letter等で発信する。④⑤⑬⑭⑮			
年次指導 (第1年次)	基本的生活習慣の確立	生徒が自ら考える力をもち、集団・社会の一員として自覚をもった生活を送れるよう支援を行う。③④⑤⑦⑧⑭			
	基礎学力の向上	日々の予習・復習をする習慣を身に付けさせるとともに、「Classi」や「スタディーサポート」を活用し、学習習慣の定着を図る。②③⑫			
		タブレット端末や教育支援ツールを活用し、効果的で効率的な授業づくりに努める。①③⑥⑫⑮			
	キャリア教育の素地の確立	社会形成能力や自己分析力といったキャリア形成に必要な力を育てる特別活動を実施する。③④⑤⑧⑨⑭ 「キャリアパスポート」や手帳活用の指導を通して、目標設定から評価・改善までのサイクルを身に付けさせる。①④⑥⑧⑨			
特別活動・課外活動の充実	ICTを積極的に活用し、年次団や各教科の連携を密にとり、業務の効率化と改善を図る。①⑩⑪⑭ 相互に授業参観・研究を行い、生徒の実態把握と授業改善に努める。③⑫⑬⑮				
年次指導 (第2年次)	基本的生活習慣の確立	生徒が自ら考える力をもち、集団・社会の一員として自覚をもった生活を送れるよう支援を行う。④⑥⑦⑧			
	進路意識の高揚と希望進路に合わせた学力の獲得	日々の予習・復習をする習慣を身に付けさせるとともに、Classiをはじめとした教育プラットフォームを活用し生徒の学習状況を把握し適切な指導を行う。①③⑤⑥			
		外部模試をはじめとした学習目標を生徒に提示し、進路意識の高揚や学習への継続的な意欲を喚起する。①③④⑤⑥			
		ClassiNOTE等の教育支援ツールを授業や特別活動に活用し、タブレット端末の利用促進に努め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。①③⑤			
キャリア形成のための素地の確立	社会形成能力や自己分析力といったキャリア形成に必要な力を育てる特別活動を実施し、生徒に課題を発見し解決する過程を体験させる。④⑤⑦⑧⑨				

別紙様式 2 (高)

		「キャリアパスポート」の活用や、理数探究・課題研究等の活動を通して目標設定から評価・改善までのサイクルを身に付けさせる。⑨⑮			
	授業改善と効率化	ICTを積極的に活用し年次団での連携を密にとり、業務の効率化を図る。①⑨⑩⑪⑫⑬			
		相互に授業参観・研修を行い、生徒の実態把握と授業改善に努める。③⑫⑬			
年次指導 (第3年次)	基本的生活習慣の確立	生徒が自ら考える力を持ち、集団・社会の一員として自覚をもった生活を送れるよう支援を行う。④⑦⑧			
	希望進路合わせた学力の獲得・ デジタル人材の育成	日々の予習・復習をする習慣を身に付けさせるとともに、Classiをはじめとした教育プラットフォームを活用し生徒の学習状況を把握し適切な指導を行う。①⑭⑮			
		希望進路の実現という目標に向け、生徒の学習への継続的な意欲を喚起する。③④⑥			
		ClassiNOTE等の教育支援ツールを授業や特別活動に活用し、タブレット端末の利用促進に務め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。①②③⑭⑮			
	キャリア形成のための素地の確立	社会形成能力や自己分析力といったキャリア形成に必要な力を育てる特別活動を実施し、生徒に課題を発見し解決する過程を体験させる。⑤⑦			
		「キャリアパスポート」を活用し、目標設定から評価・改善までのサイクルを身に付けさせる。⑤⑨			
授業改善と効率化	ICTを積極的に活用し年次団での連携を密にとり、業務の効率化を図る。①⑥⑩⑪⑭⑮				
	相互に授業参観・研修を行い、生徒の実態把握と授業改善に努める。②③⑫⑬				